

広 報

あ い か わ

昭和60年(1985年)11月29日 第331号 秋田県合川町 編集 総務課 電話 0186-78-2111

わたしたちの町

人 口(男).....4,500人
(女).....4,833人
計.....9,333人
10月中の転入..... 9人
転出.....13人
世 帯 数.....2,305世帯

(10月末日住民登録人口調べ)

今月の紙面から

2面 第10回産業文化祭
中国研修レポート
3面 チビッコ町を語る座談会
4面 関 源吉氏叙勲

'85/11月 **331号**



火の恐ろしさ 一人ひとりに呼びかけて

秋の火災予防運動

十一月三日からの秋の火災予防週間では、想定訓練、毎戸防火訪問などの活動が行なわれました。ここ羽根山部落では、町消防団に地元部落会が協力して火災想定訓練。発煙筒での出火の合図とともに、ポンプ車と消防団員がかけつけ、本番ながらの訓練を行いました。消火栓からは婦人会の皆さんが放水。整備の進む西部農免道路などを使って、各部落の消防ポンプもすばやくかけつけて部落を取り囲むように放水を行いました。

想定訓練

夢あふれる町

「松ヶ丘団地」が完成

順調に分譲すすむ

去る五月から工事が進められていた宅地造成事業が完成しました。川井地区と八幡岱地区にまたがるおよそ二十一万平方メートル。公募によって「松ヶ丘」と命名された新団地には、十戸の公営住宅が建ち、まもなく入居を開始します。

松ヶ丘団地には三百五十区画の宅地分譲を計画。そのうち初年度分として二百五十七区画の造成工事が完了したものです。このほか、取り付け道路、団地内道路の整備、約四万平方メートルの公園緑地の造成、簡易水道工事、下水管工事などが十月中旬に完成。恵まれた自然の中に、生活環境の整った新しい「街」が生まれようとしています。

分譲は七月から行っており、工事の進展に合わせて、現地案内などを行ってきました。十一月二十日現在で百七十六区画(六八・五%)で契約が終わり、住宅の建設にむけて宅地造成工事の完成が待たれていました。

松ヶ丘団地の一角に建てられた公営住宅は、一戸建て住宅が十戸。十二月一日から入居



開始する予定で、来年度にはさらに十戸の公営住宅建築を計画しています。

新団地は合川駅から車で五分、それほど同距離内に工業団地、総合福祉施設と大野台ハイランド、合川中学校や診療所・町民体育館などの町民健康広場があります。近代的なベットタウンとして、道路網の新設整備が計画されており、商業的にも利便の良い街区になるものと期待されています。

分譲は百坪||三百三十平方メートル区画で二百万円。幹線価格は三百万円。(六十年期限定価格)先着手続き順に譲渡決定しています。役場建設課に相談窓口を設けていますので気軽に立寄りください。

町長日記から

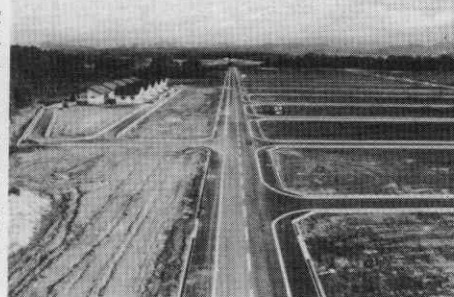
松ヶ丘団地は二百五十七区画のうち百七十六区画が決まった。団地全体が小さい方が良いか大きい方が良いか、私も議会も当初は判断に苦しんだが、中心を貫通する予定の阿仁川筋農免農道ができると、まさに町のメインストリートになるわけだから、大きな計画となった。でき上がったが、分譲する意見もあったが、私は着工と同時に図面上で分譲を考えた。お盆帰省や、その他の行事が続く、町内外の人々が見る機会が多く、完成の日には六六%が決定した。町内五十九人、県内外の町外よりも町外の人が多くなった。町に魅力がないとできないことと、嫁婚(よめむこ)でも魅力が無い者どうしでは結ばれないこととよく似ていることだ。

四月になって登記が全部完了してから、買ってくれた人々に案内して、新しい町づくりにパーテイを催したいと思っている。(義)

ふるさと讃歌 伸びゆく合川

テープ販売中

写真上|十戸の公営住宅に入居の日も近い。下|分譲宅地は整然とした舗装道路で区画。



町制施行三十周年記念式典の「ふるさと讃歌のびゆく合川」と、昭和五十八年町民体育館竣工式の「大いなる秋田」の実況録音テープを、実費でお届けいたします。十二月十日まで、ふるさと讃歌制作委員会(町教育委員会事務局)に申し込みください。(一巻 一、五〇〇円)

伸びゆく産業 たたえよふるさと

第10回
産業文化祭

- 町産業文化祭は十一月九、十日、町民健康広場の各施設を主会場にして開かれました。今年は第十回の記念祭として新しい企画を盛り
- 込んで、どのコーナーも大にぎわい。各会場で一年のまとめと、来年以降への展望を求め合いました。………



くす玉のゲートをくぐって各会場に、にぎわう人の波が続く。稔りの喜びと、明日への学びの意欲が満ちる一。



専門の講師を招いての料理教室は身近な材料で、さっそく家庭に役立つと好評でした。



かなづちで木工品づくりに挑戦。太古のくらしから木々とのふれ合いを学ばせてくれた合川営林署コーナーで。



大野台の里コーナーの一角に設けられたお茶室。中国からの研修生の皆さんがぎょうざ作り実習のあい間に一服。



町内四保育園児の鼓隊演奏で、テップカット。はつらつとした笑顔に大きな拍手。



『ふるさと讃歌—伸びゆく合川』で感動的なステージ部門の幕明け。



アキタコマチの試食、国営農用地開発など関心を集めた農業総合指導センターコーナー。

広大な国—中国を旅して(上)

鷹巢阿仁広域市町村圏組合

日中友好青年交流の旅から

私達、近藤富治郎森吉町長を団長とする総勢二十七名が、去る九月二十九日から十月八日までの十日間中国を訪問したがその印象的な事から記して見たい。

私達は、上海、北京、蘭州、敦煌、西安、上海と飛行機を乗り継ぎながら、四千年の歴史に輝く史跡や名所を訪ね、また敦煌では二百人を越す青年との交流、中国から営農大

たくましく 生きる人々

中国の人口は十億といわれ、どこを歩いても人が多い。いま人口抑制策で子供は一人しか生めない。車は少ないが代りに自転車が多く、服装はほとんどが人民服姿で質素である。食糧は輸出できるまでになり、今は、都市・農村を問わず住宅建築がたけなわで、行き交うトラックやトラレール

—には建築資材が満載されその意欲のほどがうかがわれた。農村では、トウモロコシや綿花の収穫期で忙しく働く姿が印象的であったし、またいろいろな職場では若い青年が主導で世代交代が進んでおり、日本の大学や日本文学などを学びたいという学習意欲が旺盛で、そのためには、欲しいテレビや冷蔵庫、オートバイ等には目もくれず、働いて学資を貯え将来へ備える忍耐強さには敬服させられるものがあった。中国では誰でも八時間働かなくてはいけない。働かないで食べるという事は「豚」と同じでしょうと云った青年の言葉が今でも忘れられない。

またある青年は、黄河の水を利用し、砂漠に灌漑し、農産物の生産力を高めたいという。そのためには、日本から借財を受けたいという。この青年の夢こそ明日の中国の姿を物語っているように思われてならなかった。



写真上—敦煌郊外のラバの荷車
下—レポートを寄せてくれた右から佐藤重人さん(川井) 木村仁兵衛教育長 金田正明(西根田) 一人おいて畠山雅任さん(木戸石) 松岡恭一さん(羽根山) 平川幸子さん(駅前)

町産業文化祭の中で第四回
チビッコ座談会が開かれまし
た。今回は「三十才の誕生日
を迎えた合川町」をテーマに
町内四小学校から十六名が参
加。それにことぶき大学の皆
さんが加わって、歴史を語り
未来を探る活発な発言が続き
ました。

今・夢・未来…… 子ども30才の合川町を語る

助言者

ことぶき大学
佐藤 孝輔さん(桃栄)
鈴木 幸蔵さん(福田)
御所野長三郎さん(鎌沢)
町 長 畠山 義郎
教育長 木村仁兵衛
司会 町社会教育指導員
藤岡 茂雄

はじめにことぶき大学生
と助言者の幼年期の夢を聞き
ながら、今、考えていること
は――
「ハイランド、白津山一带な
ど遊ぶところや緑の自然に恵
まれてうれしい。(五人の声)
「交通安全運動が進んで良い。
「工業開発が進んでいて良い。
「福祉施設があり、福祉の心
が育つ良い町だと思う」
「合川高校のフェンシング部
の活躍を誇りに思う。」
「マト火など伝統行事があつ
て良い町だ。」
「農村運動広場ができてよか
った。」(東小学校児童)
「川がきたなくなつて泳げな
い。」
「鷹巣のような大きな店がほ
しい。」
「家のまわりの緑が少なく
なつて残念だ。」(駅前地区)
――昔のくらしについて質問
は？
「昔は店はありませんでしたか。小
づかいは？」「学校の勉強や
テストは？」「昔の工場は？」
など次々に質問。
ことぶき大学生の、「市日」

「あめ売り」「いかだ流しに
売ったぐみ」「麻」「ぞうり」
「つまごわらじ」「子守り」
「かじや」「養蚕(とどっこ)」
など、なつかしい体験を、子
どもたちは不思議そうに、聞
き入っていました。

――将来の夢は？もし町長・
教育長になったら？
「交通事故を無くするため警
察官になりたい。」
「福祉の心」をいつまでも
持つて生きたい。福祉施設を
もっとふやす。」
「体の不自由な人のための仕
事がしたい。」
「自然をもっとふやして緑の
町にしたい。」
「工場誘導など町の発展を考
える。」
「ゴミのない町が夢。」
「ふるさと讃歌のような大き
な行事をふやす。」
「マト火、ねぶた、猿倉人形
の伝統行事を発展させる。」
「道路を広くする。」
「広い土地で馬を育てたい。」
「勉強は厳しく、勉強以外は
楽しい学校にしたい。」
「親子読書会のように親子で
教育のことを考える会を多く
する。」
「いじめを無くする。」
「全町にアンケートをとつて
必要な施設を考える。」
「ある程度の体罰は、しても
良いことにする。」
「塾をなくして遊ぶ時間をふ
やす。」
「人を思う心や、体験学習を

「ふやす。」
職業では病院、鉄道、営林
署、役場、郵便局、学校で働
きたいという希望がありまし
た。

「人を思う心や、体験学習を
ふやす。」
職業では病院、鉄道、営林
署、役場、郵便局、学校で働
きたいという希望がありまし
た。



松橋妙子さん 金田あずささん 木村 大くん 成田 農くん 藤島加代子さん 杉淵共代さん 工藤享職くん 伊勢博文くん

座談会に参加された皆さん

- 佐藤正樹くん 金 純二くん 北林美香さん 米倉りりさん 加藤文秋くん 岸田文昭くん 山岡加奈子さん 木村かおるさん



十二月二十六日交通安全特別会議

町のこよみ

- 十二月
7日 合川農村労働福祉セン
ター、合川町農業総合
指導センター、林産物
加工品等展示販売施設
合同竣工式典
8日 同竣工記念鷹巣阿仁部
職場対抗婦人バレーボ
ール大会
8日 阿仁部交通安全母の会
大会(会場＝当町役場)

確認ください
地籍調査結果

町で行った地籍調査の結果
の地図と簿冊の閲覧を行いま
す。閲覧してまちがいなどが
あった場合、その期間中に申
し出ることが出来ます。
地域 大字＝李岱・福田・新
田目・根田の二十四の小字地
区
閲覧 李岱公民館＝十二月二
日午前九時三十分～午後四時
新田目児童館＝十二月三日午
前九時三十分～午後四時三十
分 東根田公民館＝十二月四
日午前九時～午後四時 福田
児童館＝十二月五日午前九時
～正午
合川町役場＝その他の地区及
び各地区で閲覧できなかった
人＝十二月二十四日まで

浄化槽を
使っている人は――

昭和六十年十月から浄化槽
法が施行になりました。
▽浄化槽を新設する場合
使用開始後六カ月を経過し
た日から、二カ月間に水質検
査を受けなければなりません
▽すでに浄化槽を使用してい
る場合
どんな規模の浄化槽でも、
毎年一回、必ず水質検査を受
けなければなりません。
いずれも検査は、知事が指
定した検査機関で行わなけれ
ばなりません。くわしくは鷹
巣保健所におたずねください。

無料人権相談

財産や教育、近所とのトラ

今月の納期

- 県町民税第3期
- 国民健康保険税第3期

ブルなど家庭内、家庭外の悩
みを相談ください。
日時 十二月十日午前十時～
午後三時 場所＝役場会議室
相談＝秋田地方方法務局大館支
局の職員・町内人権擁護委員

雇用保険は
みんなの税金
正しく受給
十一月は雇用保険の不正
受給防止月間です。

アツこの顔だ
すぐ通報を
十一月は指名手配強化月間
です。

町森林組合事務所移転
移転先＝合川町川井字蓮岱十
六 農業指導センター内 移
転日 十二月九日 電話七八
一四一四〇

コロンビア災害救援金
日本赤十字合川町分区分事務局
(役場内)で受け付け中です。

おわび＝広報前号お誕生欄
金田真実(隆一長女 西根田)
が真美 丸谷英里子(公作二
女 増沢)が駅前、また、
産業文化祭標語入選成田弘三
(李岱)が成田弘と誤りがあ
りました。謹んでおわびし
上げます。

県民手帳
一冊 三百円 役場窓口で
十二月十日まで

合川町30周年

広報思い出のページから

三早栽培の第1号
4Hクラブでも活躍



三木田 三浦 昭さん

早まき・早植え・早刈りを呼びかけた『三早栽培』。広報第12号では「20日近くも早い田植え。」と三浦さんの植え付けを掲載しています。

桑苗購入に補助
稚蚕共同飼育



三木田の三浦昭さんは去る二十四日町内の「三早栽培」による田植えを行った。この地方の田草丈十六匁、分けつ三本、植は六月上旬(平均)という立派な苗を育(十日前後)から田植えが初まらるが、三浦さんは二十日近くも早く田植えをしたわけだ。農業振興の一端として先に、養蚕指導に乗り出した町(以三浦さん)は去る四月五日に、三早栽培の方法で植まきを、その後に計画で次の様な方針を樹て

〈昭和31年5月25日号〉

「雪をよせて、ビニール畑苗代の第一号だったので、とても不安がられ、いろいろなエピソードがありました。株間をあけて分けつをすすめる方法で収量は、他の田んぼ以上でした。営農指導員の人も、いっしょに泥まみれになって指導してくれました。」
三浦さんは4Hクラブでも活動し、昭和32年には同クラブの全県実績発表会で2位になり、その内容は広報27号で紹介されています。「米内沢に阿仁部の農業青年男女が集まって、熱心に学び合いました。郡予選の発表会の参加者がとても多く、郡代表に選ばれて県大会に行くことが大変な栄誉でした。」
現在は農業とともに、農機具の販売に従事。「あの当時に比べたら夢のような農業になりました。用途にあわせてどんな機械でもあります。ただ、商売のほうは年々厳しくなっています。」(笑)
「現在の思われた「土」が大切です。稲わらをすきこむ秋耕用機械や側条施肥機は、これから必要になる機械だと思います。それと小型の機械を(くわ)のように使い込んで、忙しい時間の合間に畑地を有効に活用する工夫も大切だと思います。」売る立場と耕作する立場をあわせて、農業への情熱は若々しい様子でした。

秋の叙勲

関源吉氏に

勲五等瑞宝章



文化の日に発表された秋の叙勲で関源吉氏(上杉・七八才)に勲五等瑞宝章が贈られました。関氏は大正十五年に上大野村役場に勤められ、昭和二十六年から上大野村収入役、昭和三十年から昭和四十二年まで合川町収入役。その後、福祉・教育関係の数々の要職にあられました。現在も社会福祉法人合川町社会福祉協議会評議員、など福祉関係団体の要職で活動されています。

この度の受章は、こうした地方自治への献身的な活動が賞賛されたものです。町では十一月二十一日、関氏の叙勲祝賀会を開催。多くの関係者とともに、今回の栄誉を讃え合いました。

子どもたちの未来に警鐘

町の子育てを語るついで

「合川町の子育てを語る集い」は十一月十七日に開かれました。集いには保育園の父兄や保母さんたちが出席。地域と施設が一体になっての子育てが語り合われました。
講師の対馬清造秋田大学教授が「たくましく、耐える子どもを育てよう」と講話。対馬氏は自分の幼児期の体験や医学的な知識から幅広くアドバイス。「兄弟が少なく、耐える心」が育っていない現代の子たちは生命力が心配。体は大きくなったが、体力がともなわれない。「無気力、無感動、無関心、無責任、無作法な子どもたちが多く『はい』という返事、『ありがとう』というお礼の言葉、『ごめんなさい』というすなおな言葉を習慣づけよう。」「親(祖父母)を大切にすることを育てよう。」「親を見て育った子どもは、自然に自分の親を大切にしようになる。厳しさと優しくもった尊敬される親になろう。」と呼びかけました。
このあと参加者からの質疑応答と話し合い。日頃の悩みなどが卒直に語り合われました。

町の辞令

〔退職〕 九月三十日付
桜庭 裕 (歯科医師)

〔兼務等〕

保健課長 和田勇治(町国保診療所事務長の兼務を解く)
助役 土濃塚一郎(町国保診療所事務長事務取扱い兼務)

善意のご寄付

(敬称略)

- 〔香典返しにかえて〕
木村運吉 下杉(故父卯吉)
松橋 優 三三(故父芳松)
松岡広治 羽根山(故父卯助)
村形正篤 川井(故祖母ケン)
成田 要 大内沢(故母ノブ)
後藤光芳 下杉(故母キエ)
佐藤憲一 木戸石(故祖母キエ)
加藤ツルエ 桃栄(故母カネ)
福岡正志 三三(故父久三郎)

〔一般寄付〕

合川町民舞同好会(会長 成田シゲ) 〓チャリティ発表会収益金
〔図書寄贈〕原田ひとみ 〓明田

慶弔だより

10月届

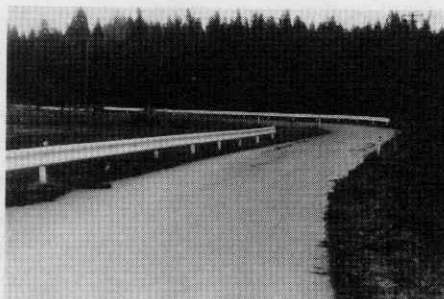
- お誕生おめでとうございます
佐藤敏次 清憲二男 木戸石
安部愛加 義弘長女 新田目
工藤綾子 隆一、二女 上杉
吉田宇宙 稔 長男 川井
正田祐介 幸雄長男 上杉
謹んでおくやみ申し上げます
佐藤チエ 憲一祖母 木戸石
成田ノブ 要母 大内沢
松橋芳松 本人 三三
後藤キエ 光芳母 下杉
松岡卯助 本人 羽根山
加藤カネ ツルエ母 桃栄
土濃塚勝二郎 本人 人芹
金田キヌ 次雄母 川井
福岡久三郎 本人 三三

交通安全

危険です

この場所でこんな事故が⑧

県道の川井踏切付近から美栄を通り大野台ハイランド方面に結ぶ町道は、日常的な通行車両のほか、観光のための車両などの通行があります。この事故現場付近は両方向からのカーブが下り坂になっており、たいへん危険です。
スピードの出しすぎや、わき見運転が大きな事故につながっています。県道に比べて道路がせまいため、対行する車両との交差は充分な注意が必要です。観光車両など地理に不案内な車に対しても、いたわり運転



場所 川井字堂ノ沢
事故 車の単独事故

すすはらい

きれいな住居でお正月を迎えようと年末に大掃除を行う家庭は多いことでしょう。神社などでも「煤祓(すすはらい)の儀」が毎年二十八日前後に日付が決められているところがあります。

すすはらいの言葉も、いろいろで木を燃やした時代のすすはらいや、ランプのすすを掃除した世代と、現代の子とではイメージがだいぶ違うことでしょう。近年は、都市部を中心に清掃業者が細かいところまで請け負ってくれるそう。特に共働きの家庭では喜ばれているのだそうです。

ともあれ、掃除にお料理と大忙しの年末年始。火災や事故が心配です。あわただしい時間の中に、思わぬ危険がひそんでいます。

